

【コミュニティについての勉強会】

※住宅審議会委員に案内し開催した、住宅審議会と別途の意見交換会

《 概要 》

- 日 時：平成 26 年 12 月 24 日（水）16 時～17 時 30 分
- 場 所：アクロス福岡西オフィス 607 会議室
- 出席者：住宅審議会委員のうち、竹下会長 外 10 名
- 事務局：コミュニティ推進課，住宅計画課，高齢社会政策課，住宅管理課，公共交通推進課
- 議 題：住生活における「コミュニティ」について

【コミュニティについての勉強会での主な意見】

コミュニティの取り扱い

- ・計画策定に向け、コミュニティを別の言葉に置き換えて住民活動という定義で議論していくべきではないか
- ・計画における、コミュニティを考えていくうえで、共助（助け合い、見守りなど）をどのように取り入れることができるのか

コミュニティ形成や自治会・町内会活動等の現状・問題点

- ・町内会は会費を集める際、オートロックになっている共同住宅等では訪問がしにくく、徴収が難しい
- ・福岡市の町内会の加入率は、都市部の割に高い（H24：77%）ものの、地域活動への参加率は低い（H24：34%）
- ・町内会が何をしているかわかりづらく、地域コミュニティが大事だと思ってもどう関わることが難しい
- ・コミュニティ活動を支援する補助金（地域デビュー応援事業）について、もっと周知が必要
- ・志が高く、頑張っている組織は、若い人が入りづらい状況にあり、優秀なボランティアグループが高齢化して大変になっているようだ
- ・後継者がおらず、辞められない役員が多い

コミュニティ形成において大切なこと

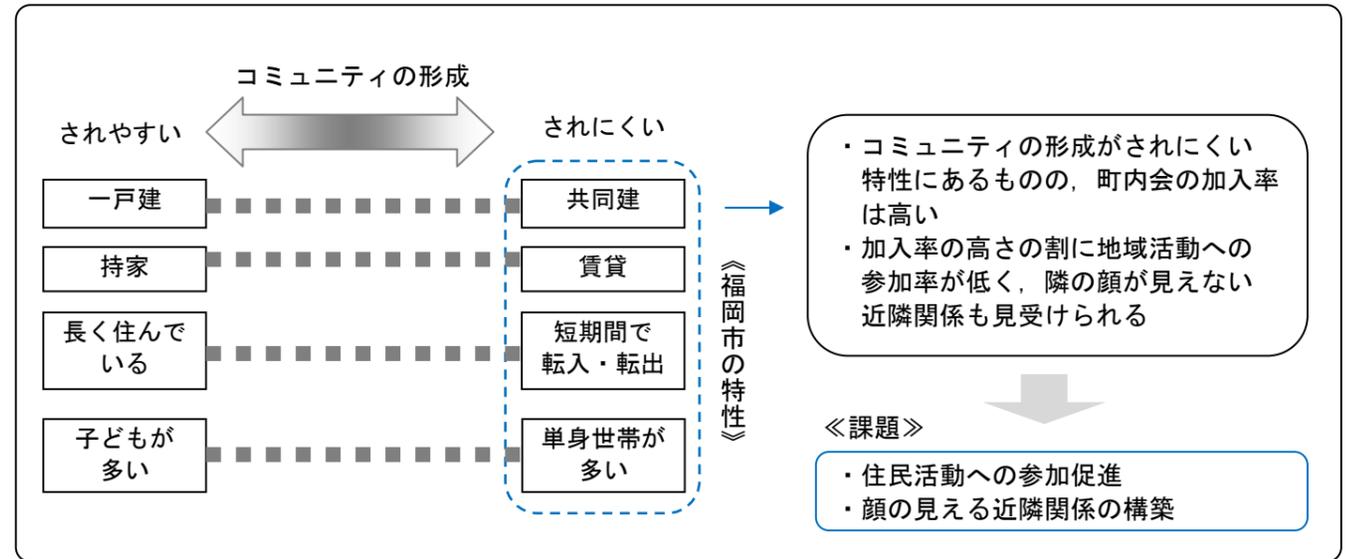
- ・集まれる場所があると地域活動が盛んになりやすい
- ・コミュニティ活動の拠点形成と住民活動の支援というセットが必要
- ・コミュニティ活動のためには、ハードがあって、ハードの管理がきつかけとなって、コミュニティ活動が活発になるのではない
- ・マンション管理組合の戸建住宅地版（エリアマネジメント）があれば、コミュニティ活動も活性化するのではない
- ・定着率が低い賃貸住宅入居者に対しては、賃貸住宅のオーナー等に働きかけることで、賃貸住宅のコミュニティがうまくいくのではない。また、分譲マンションは定着率が高ければ、入居者へ働きかけることでうまくいくのではない
- ・学生等の入れ替わりが多い賃貸住宅入居者に対しては、例えば大学等を通じて、毎年、根気よく働きかけることも必要ではないか
- ・コミュニティが良好なところでは犯罪が少なくなるという理論もある
- ・子どもを対象とした活動と違って、高齢者を対象とした活動はコミュニティ活動の核になりにくいようなので、健康づくりや健康管理などの多様な世帯が係わる活動をコミュニティ形成の核として位置づけられないか
- ・いろいろな世代が混合して住むことによって、防犯性の高いまちになっている事例がある
- ・新しい人が入りやすい、ゆるい仕組みが必要。地域活動参加の裾野をいかに広くできるかが課題
- ・イベントへの参加率は測りやすい指標だが、イベントが苦手な人の存在も認識してほしい
- ・つかず離れずの人間関係がマンション建替えの成功要因という事例がある



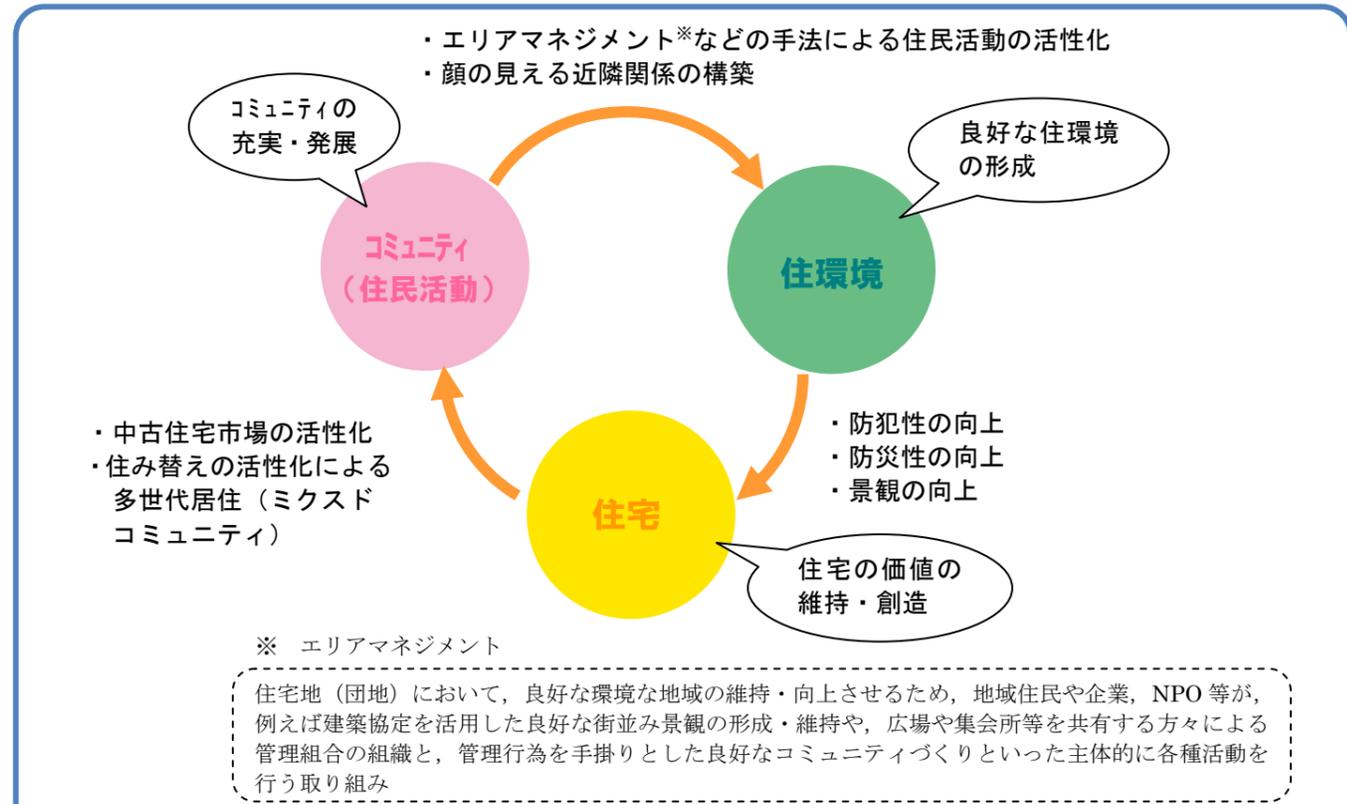
【勉強会での意見を踏まえたコミュニティの要点】

住民間のコミュニティが育まれ、コミュニティ活動が活発に行われていくことが、住宅・住環境の向上につながっていくのではない

【福岡市の現状】



【コミュニティから見た「住宅」・「住環境」の好循環】



《福岡市住生活基本計画におけるコミュニティの取扱い》

- ・身近な住生活を良くするためには、隣近所とのコミュニティ（助け合い、見守りなど）の充実・発展が必要不可欠であり、このことが良好な「住環境」の形成や「住宅」の価値の維持・創造の好循環に寄与する。
- ・福岡市住生活基本計画では、コミュニティという広い範囲の中からソフト的なもの（住民活動）を追加し、「住宅」「住環境」「コミュニティ（住民活動）」という3つの「住」を取り扱うこととした。（第1回住宅審議会資料1より）